
秋波(しゅうは)

浅川太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秋波しゅうは

【Nコード】

N0878Z

【作者名】

浅川太郎

【あらすじ】

通勤電車、美女に見つめられ

(前書き)

モテる男は、
つらいねえ

いささかクラシカルな言葉である。
辞書を見ると、「こびを含んだ色っぽい目つき」とあり、秋波を送る、が使用例となっている。

昔日のアラン・ドロンが標的とする女に秋波を送り、功を奏していた。

今で言う「目力」に近いが、やや柔らかく、精神的なことも含まれ、情報量としては豊かである。

出勤の電車内、ドアにもたれ掛かって車窓から外を眺めていたが、誰かに秋波を送られた気がした。

感じた視線をたどると、少し離れたところに座ってる美女であった。化粧品の販売担当か。

好みである。

ま、気のせいにかまってる、と、文庫本を取り出した。読みながらも、自分のポーズをガラスで確認した。

章を読み終え彼女をうかがうと、またしても、確実なる秋波。

もしや彼女、一目で僕に恋したか

何か僕のほうから言ったものか

いやはや、モテるのもツライことだ

でも、朝の電車である。

これが帰路の電車で、僕がホロ酔いであれば、何かきっかけの言葉も考えるが、朝だ。

電車は市の中心の駅に着き、僕も彼女も降りたのだが、残念ながら別々の方向であった。

駅の階段を昇りながら考えた。

次に偶然同じ車両に乗り合わせたら何と切り出そうか。

そして階段のステップから視線を真下に移してみると、前のファスナが開いていた。

どうしてあれが秋波に見えたのか

「咎める」視線も、あるいは「秋波」のなかには含まれるのかもしれない。

(後書き)

男性なら誰しも経験すること、かなあ。

女性も、本当に男性に一目惚れすると、貴方が憎い、貴方の存在が憎い。私に心の平和を返して、なんて男性を咎めるのかなあ 僕には縁がない世界だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0878z/>

秋波(しゅうは)

2011年12月3日10時52分発行